

発 達 障 害

主な特性

発達障害とは、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如/多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）などの脳機能の障害です。

原因ははっきりしていませんが、脳機能の働きに生まれつきの特性があると考えられています。この特性は乳幼児期から存在しますが、表面化する時期は子どもから大人までさまざまです。

一見ただけではその特性や苦勞がわかりにくく、親の育て方や本人の努力不足などと誤解されやすい障害です。

基本的な特性は生涯にわたって継続しますが、特性を理解して、その人に合った環境を整え支援することで、障害はあっても環境に適応しやすくなります。

自閉スペクトラム症の特性

主な特性は、「社会性（対人関係）の困難」、「コミュニケーションの困難」、「パターンの言動、こだわり」「感覚の過敏」です。

特性は一人一人異なり、知的な遅れを伴うこともあり

ます。

障害であることがわかりにくいため、一生懸命頑張っているにもかかわらず、誤解されたり、集団の中で孤立するなど、社会生活をおくる上で困難があります。

障害があっても、状況に応じた適切な環境の中で、特性を活かし安定した生活をおくる人もいます。

必要な配慮

- 一人一人の特性に合わせた日常生活や教育・就業など社会生活の環境を工夫しましょう。
- 指示は具体的に一つ一つ短く伝えましょう。
- 先の見通しを分かりやすく示しましょう。

注意欠如/多動性障害（ADHD）の特性

自分の注意力、感情、衝動をコントロールする力が弱く、周りの刺激に注意がそれやすかったり、忘れ物や物を無くすことが多いなどの「不注意」、落ち着きがない、大声で騒いでしまう、一方的にしゃべりすぎてしまうなどの「多動性」、会話やゲームに割って入る、順番が待てずに騒いだりするなどの「衝動性」が特性です。

周りトラブルを起こしたり、自信を失うことが多く、

学習や社会生活に困難が生じることがあります。



必要な配慮

- 教え方や学習の仕方、興味を持って取り組めることがたくさんあります。
ほめたり、成功体験を積み、自己肯定感を育てましょう。



局限性学習症の特性

知的発達の違いはないのに、読むこと、書くこと、計算することなど特定の学習が困難な特性があります。

勉強しても成績が上がらず、自信を失ったり、ストレスをかかえることが多くあります。

必要な配慮

- 認知特性にあった学習の仕方を、本人や家族と一緒に工夫しましょう。
- 状況によっては、スマホ・タブレットなどのICT機器の使用を考えましょう。

